

2021年10月23日 第9回オープンミーティング報告

2021年10月23日、オンラインで運営委員会をした後、公開のオンライン・ミーティングを開催しました。

テーマ：哲学対話ではなく p4c 子どもが語り始めるとき

報告者：金澤 正治（兵庫県小学校教員）

司会：城野 知佐（大阪教育大学附属平野小学校教員）

時間：午後3時～午後4時30分

参加者は基調報告者と司会以外は、運営委員3名、一般の参加7名、の計12名

概要

自己紹介

発表要旨

- ・2014年度の4年生の1年間のp4cの授業の報告

- ・学年末の3月には、シェル・シルヴァスタイン『大きな木』（村上春樹訳、あすなろ書房）を題材とした授業をした。授業の進行としては絵本を一回聞いて、まず、自由に対話をしてから、グループに分かれて問いを考え、グループで考えた問いの中からクラスみんなで深く考えられる問いを選ぶということを考えていた。

- ・絵本を聞いた後、自由に対話するの目的は、問いを考えるために絵本の内容を理解することである。これは簡単に終わらすつもりであったが、私の予想とは違って、子どもたちは次々と発言するという状態となってしまった。

- ・この後は、少し、子どもたちの発言の紹介があった。

- ・次いで、報告者のp4cとの出会い（2006年）と、その後の活動歴の紹介（2014年まで）。

- ・具体例としては、①美術館で抽象画を見て対話する授業。②ハワイ大学のトーマス・ジャクソン先生の授業。③ハワイを訪問して、小学校と高等学校でのp4cの授業の見学。

これらの経験から学んだことを列挙すると

- ① 学級での支持的風土とp4cにおける「知的に安全な場所」との親近性

- ② 教室を何かを達成するための「急ぐ場所」にしないこと

- ③ 共に探求する者としての教師

- ④ コミュニティボールによる探求の始まり

- ⑤ コミュニティボールを用いることによって変容する教師と探究の共同体の生成

などである。

- ・p4cの授業に対する保護者へのアンケートの実施をし、子どもたちにコミュニケーション

ン能力がついたという実感を持てたというような肯定的評価をもらう。

・2014年度に4年生だった子どもたちが卒業時に手紙を書いてくれた。その中には、例えば、「金澤先生との授業は、コミュニティボールが印象的で楽しかったです。おかげで自分の思いを伝えるよい練習になりました。」というようなものがあった。

質疑応答

Q：なぜ p4c の誘いに興味を持ったのか？

A：教師の聞き方によって、子どもたちは語るようになる。子どもが語る授業をしてみたいと思ったから。対話をしたいという気持ちがあった。

Q：p4cを通して、聞き方はどのように変わっていったか？

A：色々な授業で教師がどのような聞き方をしているかを見るようになった。褒めることとは違う。うなずき方、眼差しが重要だと思えるようになった。そのような自然な反応が大切。

Q：幼児の段階ですでに人とは違うという感覚が持てない。他の子の気持ちにも気づけるのは大切。それを対話で行うようにしたらどうか、と考えた。そこで、幼児に p4c をするにはどのようなきっかけがあればいいか。

A：ボールを使うのは有効ではないか。ボールを持っている子が話せて、他の子は、みんな、聞こうねというルールが分かりやすい。「みんなで聞こうね」ということの繰り返しによって、他の子の話を聞くことができるようになる。ボールを用いるのは、一種のゲーム感覚を持てるのでいいのではないか。やはり、理由を聞き話せるようにしていく。

Q：子どもが対話するようになってどのような学びの変容はありましたか？

A：発言が長くなる。比べる要素が多くなっていく。例えば、対等な人に対する態度と上下関係のある人に対する態度は違うというような発言とその理由に対してクラスの子たちが納得していくという場面が生まれる。他の授業でも子どもの参加態度が積極的になる。

Q：実際にどのような形で p4c をしているのか。

A：道徳や特活でやってきたが、最近は社会科でやっている。もちろん国語でもできる。

取りあえずは、学校で旨くやっつけける方法を考える。総合の時間で定期的にする。

国語などでも理由を聞くということが行われているが、そういうことをきっかけにすることもできる。

高校では、放課後でやることが多い。授業でも思いきってやってみる。

図工の時間で、コミュニティボールを作っている。

Q：どうしたら、うまく授業ができたと言えるのか。

A：授業記録を取ってみる。他の人の授業をよく見る。実際授業がうまくいったという感覚はもてない。

C：特に p4c をしますといった形で構える必要はないのではないかな。

Q：先生自身の変容していることはありますか。

A：気が長くなった。聞けるようになった。待てるように、子どもを信用できるようにな

った。(子どもの邪魔をしなくなった。)

午後4時半以降は、自由なディスカッションをして、意見交換等をした。